

提携米通信

2011年4月号・黒瀬農舎

震災と異常気象



2011/3/23

被災地へ「あきたこまち」を搬送 / 黒瀬農舎倉庫にて (2011.3.23)

この度の地震と津波の被害は誰もが想像を絶するものでした。

被災地の皆さんのご無事と、いつまで続くのかまだ先が見えない混乱の中でお疲れがないようにお祈りしているところです。

当地秋田は住居や倉庫などにも地震・津波の直接の被害はありませんでした。ご心配をお掛けし、お見舞

いのメールやお電話をありがとうございました。

また、1週間余り荷受けがストップ、荷受けが再開されてからも、遅配や配送についてのお問い合わせにも情報が得られず十分な対応が出来なかったなどの混乱が2週間余り続きました。ご不便や、不快な思いをお掛けしたことをお詫び致します。

さて、我が農舎がお米をお届けしている方の中で、今回の被災地域周辺にお住まいの方は、被災地域が都市圏でなかったことでごく少数の30所帯程度でした。

この方々に連絡を取ろうとしても当地秋田の電話もほぼ不通状態でしたので、地震から3日目の14日にお見舞いと震災対応のご案内のハガキを送らせて頂きました。

郵便は予想以上に早く配達されたようで、「無事」との連絡を次々と頂きました。

でも、半数近くの方からはまだ連絡がありません。この方々の住所地を調べてみますと、津波が襲った地区の方は、幸いにも見当たりませんでしたが、お仕事などで外出中のご家族や肉親の方の被災がないことを願っているところです。

ところで、被災地を今年の非情な寒さが襲っています。太平洋側は本来雪が少ない地域ですが、今年は雪まで降っているようで被災された方は本当にお気の毒です。

秋田も今年は早くに春が来る気配でしたが、種蒔き準備の時期になったというのに、日中にも雪が積もる日が多くあり、これからのお米作りを心配しているところです。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友 基

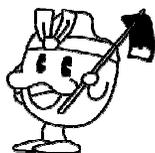
Tel 0185-45-3088

Fax 45-2887

E-mail : akita@kurose.com

HP検索 :

黒瀬農舎

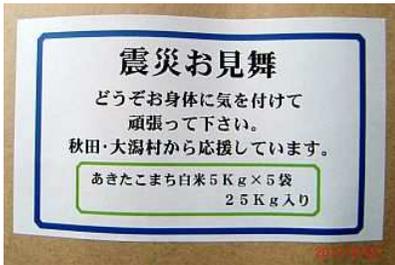


☆お米が余った時は、ご遠慮なく早めにパスや減量のご連絡をお願いいたします。
☆未開封のお餅にカビが出た場合は袋の傷が原因です。連絡頂ければ代品を送付致します。

所得補償予算を組み替えて原発賠償に

地震後2週間までは、被災者に食糧が不足しているとの報道が多くありました。

我が農舎はお米作りが専門ですから「お米を届けたい。」と思っても、一般の輸送はストップ、県などの支援物資受付窓口は、タオル以外は受付停止でした。



こうした時に、地震翌日から石巻市の災害ボランティアに行っていた知人が、「避難所は寒さと食糧不足で困っている。布団やお米が欲しい。」と、1週間目にワゴン車で訪ねてきたので、ロッジの布団、毛布、

防寒着やお米を託することができました。

またその翌々日には、別の知人が「グループで炊き出し支援を行うために、お米を提供して欲しい。」と要請してきました。

早速、2万個程度のオニギリが作れるように精米作業を行い5Kgのポリ袋に詰め、5袋毎に紙袋にまとめた白米1トンを仙台の支援拠点に送りました。まだ、輸送混乱中でしたが、運送会社の協力によって23日に到着させることに成功しました。

物資支援は、やみくもに提供しても、届ける手段の確保や、多くの人々との連携がなくては、被災者に活用して頂けないなどの難しい問題が常につきまといますが、今回の我が農舎の場合は、このように、いい按配に連携ルートが見つかって幸運でした。

ところで、今回は原発災害も重なりました。

原発被災は、今後長い期間復興すらできないという難問まであります。

地震・津波の被災者の方もお気の毒ですが、私たち「農業生産者」は、特に、春作業の時期を迎えた原発被災地の農家の心情を想うとお慰めの言葉もありません。

私たちの経験では、せつかく育てた作物などが台風などの災害を受けた場合、経済的な損失にも増して、精神的な痛手の方が数倍大きいのが常です。

でも、台風などの災害は、翌年にはまた頑張れますが、原発被災地の農地は長期間にわたって回復の目処がたたないなど比べようもありません。

この中には、農薬などを使わず、また、何年もかけて土作りを行ってきた有機農家もいらっしやるでしょうが、彼らの努力はすべて水の泡に帰します。

政府の本来の使命は、災害を回避するインフラ整備や災害発生時の救済などのはずです。でも政府は昨年からは、これらを放置して、農家への所得補償を始めました。

私は、これは、政策思想の分裂であり、また、補助金のバラ撒きによる農民のモラルハザードを生み、日本農業を破壊する「愚策」だと常々批判してきたところです。

ところが、新年度ではこの所得補償予算を1兆円近くにも増額しています。

五体満足なのに工夫や努力もしない農民に税金をバラ撒く所得補償予算は、速やかに組み替え措置を行い、被災者援助や原発加害の賠償に振り向けて欲しいものです。

また、全国の農民も「所得補償金返上」の支援行動に立ち上がって欲しいです。